

## パリの緑茶専門店から見たフランスの緑茶市場の傾向について

パリ事務所

2010 年 11 月に開催した自治体関係団体の見本市である「サロン・デ・メール」で、クレアパリの活動紹介に加え、日本茶の PR を行いました。サロン・デ・メールにおいて効果的に緑茶の PR ができるよう、9 月にパリで日本茶専門店を営む寿月堂パリ店代表の丸山真紀氏を当事務所に招き、フランスの緑茶市場の特徴について講演していただきました。その講演内容の一部を紹介します。



寿月堂パリ店代表 丸山真紀氏

### ➤ 拡大する日本茶販売

フランスにおける 3 年間の市場調査、出店準備を経て、2008 年に現在の店舗をオープンした。リーマンショックの余波による不況という厳しい中にあったが、日本食ブームが手伝って、日本茶の現在の取扱量は店舗オープン時のおよそ 2 倍まで拡大している。

### ➤ 日本茶とフランス人の味覚

フランスには無数とも言えるほどの地域ブランド（原産地呼称制度）をもつワインやチーズの文化があり、多様な味覚を区別し受け入れることができる繊細な味覚を持っている。よって、フランス人には日本茶本来の味わいを的確に評価してもらうことができると思われる。

### ➤ フランス人に売れるお茶

(種類)

当店舗が扱う日本茶の主な種類は、抹茶、玉露、煎茶、玄米茶、ほうじ茶である。その中でも、玄米茶がよく売れるが、その背景としては、フレーバー・ティーの文化がフランスに根付いているからだと考えられる。お煎茶もフランスでは「SENCHA」がすでにお茶の種類のひとつとして高く評価されているが、今までフランスの市場に出回っていたのは普通煎茶のレベルのお茶であるため、当店の高級煎茶が目新しく人気を呼んでいる。

(店舗販売と卸販売の違い)

店舗販売でより売れる日本茶は玉露である。「この店で一番いいお茶がほしい」、「一番高いお茶はどれか？」などと言って、店舗にお茶を買いに来る客が一定数いる。教養があるように振る舞おうとする「スノップ」の文化があるフランス・パリならではの文化があると思われる。その結果、最も高い価格帯のお茶である玉露が店舗販売での人気商品である。

卸販売では、レストランなど料理店と取引がある関係上、食事中、食後のお茶として玄米茶、ほうじ茶、普通煎茶がよく売れる。また、飲むためだけでなく、食材（特にデザート）としては抹茶の需要が高い。なお、レストランガイドで評価されているレストランのシェフたちは、日々、新しい食材を探すことに躍起になっており、最近は緑茶だけでなくゆずやのりなど特に日本の食材が業界では注目を集めている。

### ➤ 購入目的

店舗に来るフランス人は、普段飲むために日本茶を買う人のほか、贈答用に日本茶を買い求めに来る人も多い。特にクリスマスを祝う 12 月は、通常月よりも売り上げが倍以上も伸びる。

## ➤ フランスにおける日本茶の習慣

家庭で日本茶を飲むフランス人に聞くと、総じて、朝食とともにお茶を飲む人が多い。夕方以降はあまり日本茶を飲まないようである。フランス人はお茶に含まれているカフェインを気にすることから、覚醒の効果を期待して朝にお茶を飲んでいると思われる。

## ➤ 日本茶の地域ブランド

日本に行ったことがある人、日本文化に興味のある人など、日本通が増えていることから、日本茶の産地名も認知されつつある。特に、抹茶では京都の宇治が突出して知名度がある。今後、他の産地の緑茶も地域ブランドとして売っていくのは有効ではないかと思われる。

## ➤ お茶の販売促進の方法

### ・各種見本市、イベントへの出展

パリ国際食品見本市（SIAL）やメゾン・エ・オブジェ（Maison et Objet）<sup>1</sup>など業者向けの見本市に出展した。それらへの出展を契機に現在も取引が続いているものがある。

### ・口コミ

卸しで取引している高級レストランで緑茶を味わい、レストランから当店を紹介されて、買いに来る客も珍しくない。各種メディアへの露出による宣伝よりも、取引のあるレストランからの紹介などの口コミの方が宣伝効果が強いと感じる。

### ・日本食文化のPR

海外で日本茶という品物を単に売るだけでは販売拡大につながらない。緑茶の入れ方、抹茶の点て方、お茶の飲み方、さらには和食の食べ方など、日本の食文化や伝統文化もあわせてフランス人に伝える必要がある。フランス人は事物の「うんちく」を他人に語ることが好きな人たちであり、緑茶を日本の食文化とあわせて売り込むことはフランス人の知的好奇心にも応えるものである。

## ○ まとめ

フランスでも紅茶専門店やレストランで、緑茶を楽しむことができます。現地のお店では、お世辞にも、おいしい緑茶に出会うことはなかなかありません。しかし、瀬戸物ではなく南部鉄器の急須で緑茶を入れて異国情緒を演出するなど、フランスの人々は緑茶を楽しむようになっています。

2010年9月には、スイスに本社拠点を置く食品世界最大手のネスレが、「スペシャル・テ（Special.T）」と呼ばれる、家庭用ハイテクお茶マシンをフランスで売り出し始め、主なテレビ局でも大体的にコマーシャルが放映されています。これは茶葉が密封されたカプセルをセットするだけで、自動的においしいお茶を楽しむことができる機械です。もちろん緑茶も手軽に入れることができます。ネスレは、フランスを皮切りに、今後、欧州全体にこのお茶マシンの販売を広げていくそうです。この家庭用お茶マシンの登場により、緑茶がヨーロッパでより広く飲まれるようになるかもしれません。

また、アルツハイマー病患者が80万人いるとも言われ、フランスでも社会の高齢化が進んでいます。最近、緑茶の効用が科学的に解明されるようになり、アルツハイマー病予防にも一定の効果があると示されています。こうした点も緑茶の普及促進につながることを期待されます。今後の欧州での緑茶市場の動向が注目されます。

（安藤元所長補佐 静岡県派遣）

<sup>1</sup> パリで毎年開催される世界最大級のホームインテリア用品見本市